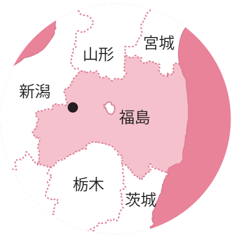
商工会女性部はまちに元気と安心をお届けしています。

はちみつ通信

月に2回の「夕市」で手づくり総菜を販売。食を通して地域を元気に

三島町商工会女性部（福島県）



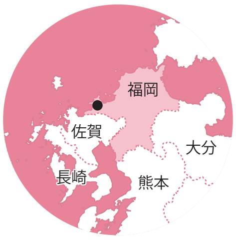
三島町は、福島県の西部に位置し、尾瀬を源流とする只見川沿いにある山間の町です。人口約1400人で、高齢化率も非常に高くなっています。一人暮らしの高齢者が多いなかで、商工会では2015年から買い物が困難な方や町内の消費拡大を目的として月に2回、夕方の時間帯に町内の商店街中心部で、地元の特産である「会津地鶏」の焼き鳥や唐揚げ、町内で育てた野菜を使ったお総菜やデザートを販売する「夕市」を開催しています。

女性部では「夕市」を盛り上げるために、地元の食材を使用し、素材を生かした手づくりのお総菜を提供し、町民の豊かな食づくりに貢献しようと出店活動を続けています。商売の傍ら、メニューの考案や買い出しを行い、当日の朝から仕込みをし、販売まですべて部員で行っています。季節に応じたメニューはもちろん、普段食べ慣れている食材をアレンジしたものや、新し

地域資源の古代米を女性部員たちが栽培して焼き菓子を開発

糸島市商工会女性部（福岡県）

「いなだま」の名前は、無農薬の稲につく天然麹菌「稲魂」に由来。
稲魂がつくと豊作になるといわれた



い食感を加えたメニューは評判となっています。

また、高齢者向けには塩分を控えるなど、栄養まで考えた食事づくりに不慣れな住民のために、栄養バランスの取れた体に優しいメニューを提供しています。

「夕市」の日は、町民にとっても「楽しみの日」となっており、みんなが幸せで楽しくなるような、そんな食卓になればと考えながら活動しています。

これからも、町民に寄り添い、「食」から地域を元気にして行きたいと思います。

右・右下／町民が訪れる「夕市」で部員手づくりの総菜を販売　左下／仕込みの様子。メニューの考案から調理、販売まで部員が手がける

糸島市は福岡市に隣接し、食や自然に恵まれている地域で、糸島市商工会女性部では、全国連の「おもてなし交流事業」を活用した「食」や「クラフト」「自然」などの観光資源を組み合わせたツアーを好評展開中です。また、地域の商工業を担う多様な業種の女性部員の目線から、地域資源を活用した商品を開発・提供することで、観光客へアピール、地域全体の活性化につなげたいと考えています。

2019年度には、商品開発に関する実行委員会を立ち上げました。補助金を活用しながら、古代米の赤米、黒米を原材料とした煎餅を開発しましたが、当初の商品は食感が硬いなど、高評価を得ることができなかったため、2022年度に商品を改良。赤米、黒米の籾まき、田植え、稲刈りに女性部員の手作業で取り組むことで、個性と魅力ある地域づくりにも貢献したいと部員一丸となって挑戦。てんさい糖など材料にもこだわりながら、アレルギーをもつ方でも安心して食べられる米粉だけを使用したほっこり焼き菓子「いなだま」をつくり上げました。

「いなだま」は、取扱店や地域イベントでの販売に加えて、今年度から本会で行われているすべての会員事業所対象の「バースデイ訪問事業」の記念品や「おもてなし交流事業」のお土産品として活用し、今後もPRしていきます。また、今年度は新たな商品を加え、「いなだま」と組み合わせたギフト商品づくりにも取り組んでいます。

糸島市商工会女性部のホームページでは、女性部の活動内容をはじめ「いなだま制作ストーリー」の動画や販売店情報を掲載中！

女性部員で稲刈りも